

# 第 29 回 口腔顔面神経機能学会総会・学術大会

## プログラム・抄録集



2026年3月14日（土）

## 会場

東京歯科大学水道橋校舎 新館

大会長 片倉 朗 東京歯科大学口腔病態外科学講座

準備委員長 西山明宏 東京歯科大学口腔病態外科学講座

有泉高晴 東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座

## 第29回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会 日程表

<p>9:00~ 9:10 開会の辞 片倉 朗</p>
<p>9:15~9:40 一般演題 I 座長: 飯田征二</p>
<p>10:00~11:15 特別講演 I 座長: 片倉 朗 「医原性神経障害患者の実態」 演者: 福田 謙一 (東京歯科大学) 「幹細胞と痛み」 演者: 黄地 健仁 (東京歯科大学)</p>
<p>11:15~12:30 昼休憩 11:30~12:30 役員理事会 ※理事の先生方は 11 階第一講義室へお集まり下さい</p>
<p>12:30~ 13:10 総会</p>
<p>13:15~13:45 学会賞受賞講演 座長: 田中 晋 (大阪大学)</p>
<p>13:55~14:20 一般演題 II 座長: 相川友直</p>
<p>14:30~14:55 一般演題 III 座長: 竹信 俊彦</p>
<p>15:15~15:55 アドバンスセミナー 座長: 高田 訓 演者: 松村達志 (和歌山県立医科大学)</p>
<p>16:10~16:35 一般演題 IV 座長: 松村達志</p>
<p>16:40~17:10 特別講演 II 座長: 西山明宏 「マウスの味覚神経伝達機構」 演者: 安松啓子 (東京歯科大学短期大学)</p>
<p>17:15~ 17:20 閉会の辞 有泉高晴</p>
<p>17:30~ 懇親会 (欲張りバル Cantina 水道橋西口店)</p>

## 大会長挨拶



第 29 回口腔顔面神経機能学会学術大会 大会長  
東京歯科大学口腔病態外科学講座 教授

片倉 朗

この度、第 29 回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会を担当させていただくことになりました。本学の口腔外科では 1980 年代から下歯槽神経を中心にした末梢神経障害に関する基礎的、臨床的研究が行われてきました。その実績を活かして 2011 年から急性期神経機能修復外来（水道橋病院・千葉歯科医療センター）を設置し、口腔外科・歯科麻酔科・ペインクリニック科・歯科放射線科が協力して、顎口腔領域の末梢神経麻痺や神経痛の検査・診断・治療にあたっています。2024 年は約 160 例の初診患者さんが全国から来院されていますが、抜歯に伴う舌神経麻痺の症例が増加している傾向が顕著です。また、2025 年 11 月に福岡で開催された第 70 回日本口腔外科学会総会・学術大会のシンポジウム 2「痛みと麻痺、神経疾患の現状」は初日の早朝のセッションにもかかわらず、大変多くの先生方の参加をいただき、治療にあたる先生方の関心の高さがうかがわれました。

今回の大会では、東京歯科大学の生理学講座講師の黄地健仁先生に「幹細胞と痛み」、口腔健康科学講座教授・ペインクリニック科主任の福田謙一先生に「医原性神経障害患者の実態」というタイトルで、その豊富な経験を活かして基礎と臨床の立場から痛みの治療に関わる新たな知見について講演をいただきます。また短期大学の安松啓子教授には、味覚の嗜好に関連する鼓索神経と舌咽神経の味覚機能について解説していただきます。これに先生方に御発表いただく研究成果や臨床経験も合わせまして、本大会が参加いただく先生方にとって顎口腔領域の神経障害の診断と治療に関しての知見を Update していただく機会となり、それが患者さんのより良い予後に繋がることを期待しています。講座に関わることなく、本学の神経機能に関わるスタッフが総出で本大会の運営にあたります。

多くの皆様の参加をお待ちしております。

## 第29回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会に参加される皆様へ

### 1. 参加方法について

現地開催のため、当日現地にて受付してください。

学会参加費：5,000円（当日受付、現金のみ）

### 2. 役員の先生方へ

3月14日（土）11:30 より役員理事会を開催いたします。

第1講義室（東京歯科大学新館11階）にお集まりください。昼食をご用意いたします。

### 3. 座長の先生方へ

当日受付はいたしません。

担当セッション開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。

また、予定時間通りに発表が進行しますようご協力をお願いいたします。

### 4. 演者の先生方へ

#### ①発表データと発表方法について

一般口演の発表時間は6分、その後の質疑応答は2分です（発表時間残り1分でベル）。

発表データは Microsoft Power Point で作成いただき、USBメモリーに保存してご持参ください。スライドは、Power Point Windows 版で行います。

Macintosh を使用される場合はご自身のPCと変換アダプタをお持ちください。

#### ②当日の受付について

演者受付は、8:30 より新館校舎1階の受付にて行います。発表するセッション開始の30分前までにPC受付にデータをご提出ください。

#### ③後抄録について

演題名・所属・演者（発表者に○）・1,200～1,500字程度の後抄録をWord ファイルで作成し、2026年3月21日までに大会事務局へメールでお送りください。なお、本文以外に4、5枚程度の写真・図表を加えていただいてもかまいません（カラー不可）。

## 5. アドバンスセミナーを受講される先生方へ

第29回口腔顔面神経機能学会アドバンスセミナーを受講されますと口唇・舌感覚異常判定認定医の申請・更新に必要な単位の取得が可能です（10単位）。

\* 終了後に会場にて受講証書をお渡ししますので、お受け取りください。

## 6. 会員懇親会に参加される先生方へ

17時30分より欲張りバルCantina水道橋西口店にて懇親会を行います。

会費は受付にてお支払いください（会費：6000円、現金のみ）。

## 7. 交通案内

会場：東京歯科大学新館校舎11階第1講義室

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18（総武線水道橋駅より徒歩5分）



## 8. 口唇・舌感覚異常判定認定医試験を受験される先生方へ

第15回口唇・舌感覚異常判定認定医試験（筆記試験及び面接）は、  
3月15日（日）に東京歯科大学新館校舎7階実習室にて行います。

試験の詳細についてはHPをご確認ください。

申込先：口腔顔面神経機能学会事務局

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座内

関 壮樹 E-mail: [tei.souju@gmail.com](mailto:tei.souju@gmail.com)

## 9. 精密触覚機能検査研修会を受講される先生方へ

2026年度第13回精密触覚機能検査研修会は、

3月15日（日）14時より東京歯科大学新館校舎7階実習室で行います（13時45分  
集合）。

申込先：精密触覚機能検査研修協議会HP

## 10. 大会事務局

東京歯科大学 口腔病態外科学講座

準備委員長：西山 明宏、有泉高晴

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

Tel： 03-6380-9246

Fax： 03-3262-3213

E-mail： [nishiaki@tdc.ac.j](mailto:nishiaki@tdc.ac.j)

# 【プログラム】

## 9:00 ～ 9:10 開会の辞

片倉 朗（東京歯科大学 口腔病態外科学講座）

## 9:15 ～ 10:40 一般演題 I

座長 飯田 征二（岡山大学学術研究院医歯薬学域 顎口腔再建外科学分野）

### 1-1 保存療法を選択した舌神経障害の臨床的検討

東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座

多田 慧、他

### 1-2 エナメル上皮種に対する下顎骨辺縁切除において神経再生誘導チューブを使用した治療経験

NTT東日本関東病院

沢井奈津子、他

### 1-3 東京歯科大学千葉歯科医療センター急性期神経機能修復外来における過去5年間の臨床的検討

東京歯科大学口腔病態外科学講座

山本裕義、他

## 10:00 ～ 11:15 特別講演 I

座長 片倉 朗（東京歯科大学 口腔病態外科学講座）

### 医原性神経障害患者の実態

東京歯科大学口腔健康科学講座 障害者歯科・口腔顔面痛研究室 教授 福田謙一

### 幹細胞と痛み

東京歯科大学生理学講座 講師 黄地健仁

## 12:30 ～ 13:10 総会

## **13:15 ～ 14:35 学会賞受賞講演**

座長 田中 晋 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座)

### **1. 舌がん患者における術後の舌知覚変化が構音機能に及ぼす影響**

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔腫瘍外科学講座 松永和秀

### **2. インプラント治療に起因する下歯槽神経障害の病態分類と治療戦略**

東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座/医療法人社団ムラヤマ歯科 村山雅人

## **13:55 ～ 14:20 一般演題 II**

座長 相川 友直 (広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学講座)

### **2-1 当科における顎関節外科手術後の顔面神経麻痺の検討**

広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学講座 梶原千聡、他

### **2-2 ALS脊髄後根神経節における一次感覚ニューロン障害の病態解明**

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座 西浦 輝、他

### **2-3 嚥下機能評価を契機に診断され、多職種連携により経口摂取再開に至ったワレンベルグ症候群の1例**

滋賀医科大学医学部 歯科口腔外科学講座 村井崇人、他

## **14:30 ～ 14:55 一般演題 III**

座長 竹信 俊彦 (大阪歯科大学 口腔外科学第二講座)

### **3-1 術野に舌神経が露出した下顎枝分割の1例**

広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学講座 北村海大、他

### **3-2 舌神経外傷性神経腫の超音波検査による定量評価**

東京歯科大学口腔病態外科学講座 岩崎 亮、他

### **3-3 Le Fort I型骨切り術後の歯髄反応の経時的変化に関する検討**

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔再建外科学分野 小竹森未菜美、他

## 15:15 ～ 15:55 アドバンスセミナー

座長 高田 訓 (奥羽大学歯学部 口腔外科学講座)

### 口腔機能を支える末梢神経

和歌山県立医科大学医学部 歯科口腔外科学講座 教授 松村達志

## 16:10 ～ 16:35 一般演題IV

座長 松村達志 (和歌山県立医科大学医学部 歯科口腔外科学講座)

### 4-1 カプサイシン刺激による生理学的味覚性発汗と唾液分泌の反応

奥羽大学大学院歯学研究科顎口腔外科学講座 月村久恵、他

### 4-2 開口時における高速MRIを用いた舌神経損傷リスクの検討

東京歯科大学口腔健康科学講座障害者歯科・口腔顔面痛研究室 加藤栄助、他

### 4-3 根管治療に起因した下歯槽神経麻痺の臨床的検討

東京歯科大学口腔病態外科学講座 杉浦 慧、他

## 16:40 ～ 17:10 特別講演II

座長 西山明宏 (東京歯科大学 口腔病態外科学講座)

### マウスの味覚神経伝達機構

東京歯科大学短期大学 教授 安松啓子

## 17:15 ～ 17:20 閉会の辞

有泉高晴 (東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座)

## 17:30 ～ 19:30 懇親会

## 特別講演 I

# 医原性神経障害患者の実態



東京歯科大学 口腔健康科学講座障害者歯科・口腔顔面痛研究室 教授

福田謙一（ふくだ けんいち）

医原性三叉神経障害（三叉神経ニューロパチー）患者は、歯科で受けた処置をきっかけとして、痛みや痺れなどの神経症状に苦しみ、日常生活に支障をきたしている。その患者管理は、心理学的対応を含め、歯科臨床において解決すべき問題の一つである。神経損傷後の治療は患者の症状から生じる不快感や生活支障度の改善を目的としているが、どの治療方法が最適かは十分に解明されてはいない。また、客観的な治療結果が良くても患者が感じる症状の不快感が十分に解消できてないこともしばしばある。症状には、患者背景や心理学的側面が影響する場合も考えられる。ここでは、医原性神経障害患者の症状不快感と生活支障度に影響する要因調査、予後調査の結果を含め、本患者群の現状と実態について報告する。

### <略歴>

1990年 東京歯科大学卒業、歯科麻酔学講座入局  
1994年 東京大学医学部麻酔科医員（～1995年）  
1997年 アメリカ合衆国 UCLA Harbor Medical Center 麻酔科客員研究員（～1998年）  
2004年 東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科/口腔顔面痛みセンター科長  
2006年 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座歯科麻酔学分野准教授  
2015年 東京歯科大学口腔健康科学講座／障害者歯科・口腔顔面痛研究室教授  
現在に至る

### <学会活動>

日本口腔顔面痛学会（理事長／専門医）  
日本障害者歯科学会（社員／指導医）  
日本歯科麻酔学会（社員／専門医）  
日本歯科心身医学会（理事）  
日本ペインクリニック学会（特任評議員）  
日本神経精神薬理学会（評議員）



## 幹細胞と痛み

東京歯科大学 生理学講座 講師

黄地 健仁 (おうち たけひと)

第29回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会におきまして、大会長・片倉朗先生のご高配のもと、特別講演の機会を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。  
本講演では、神経機能回復と痛みの問題を、幹細胞研究の視点から再考いたします。臨床および基礎研究を通じて、神経機能の回復は組織治癒の重要な要素であり、患者の満足度や将来への希望を支える基盤である一方、その不全は破壊的思考を誘発し、QOLの著しい低下に直結することを実感してまいりました。とりわけ神経細胞は、その細胞体が感覚受容・運動機能の発現部位と離れて存在するという、きわめて特異な構造的特性を有しています。組織損傷後の再生過程において、神経細胞が周囲細胞といかなる機能的連関を構築し、痛みや運動の制御、さらには恒常性維持にいかにか寄与するのかを検討いたします。ES細胞・iPS細胞ならびに組織幹細胞を用いた研究成果を基盤として、神経再生医学の現在地を整理するとともに、今後の展望と克服すべき課題について考察いたします。

### <略歴>

2011年 東京歯科大学 卒業  
2013年 慶應義塾大学病院臨床研修歯科医 修了  
2013年 慶應義塾大学大学院医学研究科 博士課程 入学  
2017年 慶應義塾大学大学院医学研究科 博士課程 修了  
2017年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室 助教  
2019年 Harvard University / Harvard Stem Cell Institute 博士研究員  
2021年 東京歯科大学生理学講座 助教  
2024年 東京歯科大学生理学講座 講師  
2025年 東京歯科大学リサーチアドミニストレーター (兼任)

### <学会活動>

日本口腔科学会 認定医  
日本有病者歯科医療学会 認定医  
日本老年歯科医学会 認定医  
日本再生医療学会 再生医療認定医  
国際生理科学連合 (IUPS) 国際メンタリングプログラム メンター

---

## 特別講演 II

---



### マウスの味覚神経伝達機構

東京歯科大学短期大学 教授

安松 啓子 (やすまつ けいこ)

味覚は、人がその時に必要な食物を選択するためのシグナルだが、食の喜びを与えるだけでなく、口腔内に取り込んだ後の咀嚼、唾液分泌、嚥下といった口腔機能に影響を与える。基本味（甘味、うま味、塩味、酸味、苦味）を受容する細胞とその情報を伝える神経は、基本味の数と同じ5種類と考えたくなるが、実際には1つの味質に対し複数の受容体が存在し、その受容体を発現する味細胞と神経の関係性も単純ではない。第6の味覚の可能性が示唆されている脂肪味についても複数の受容伝達機構が存在し、舌の前方では他の味覚との弁別、後方では嗜好の機能と結びついている。本講演では、実験における神経手術手技にも触れながら、鼓索神経と舌咽神経の味覚機能について解説したい。

#### 〈略歴〉

- 1991 九州大学歯学部卒業 歯科医院勤務
- 2003 九州大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
- 2003 九州大学大学院歯学研究院 研究員（2005 特任助手 2006 特任講師）
- 2009 朝日大学口腔生理学分野 准教授
- 2011 九州大学大学院歯学研究院 特任准教授
- 2014 九州大学味覚・嗅覚センサ研究開発センター 准教授
- 2019 東京歯科大学 口腔科学研究センター 准教授
- 2020 東京歯科大学短期大学 教授
- 2022 モネル化学感覚研究所（Philadelphia, USA）客員教授（兼任）

#### 〈学会活動〉

- 日本生理学会, 評議員
- 歯科基礎医学会, 代議員, 研究委員
- 日本味と匂学会, 運営委員

## アドバンスセミナー



### 口腔機能を支える末梢神経

和歌山県立医科大学医学部 歯科口腔外科学講座 教授

松村 達志 (まつむら たつし)

口腔機能は、咀嚼・嚥下・構音・味覚・表情といった日常的な働きによって成り立っており、その背景には複数の末梢神経の協調があります。本講演では、三叉神経、顔面神経、舌咽神経、舌下神経など、口腔・顔面領域に関わる主要な脳神経を取り上げ、感覚・味覚・運動という視点から分かりやすく整理します。あわせて、日常診療で遭遇し得るさまざまな神経症状を念頭に置きながら、症状から神経の関与を考える基本的なアプローチと、診察・対応のポイントについてご紹介します。

#### <略歴>

平成5年 広島大学歯学部歯学科 卒業  
平成5年 大阪大学歯学部 口腔外科学第二教室 入局  
平成9年 大阪大学大学院 歯学研究科 博士課程 修了  
平成9年 国家公務員共済組合連合会 大手前病院 歯科口腔外科 医員  
平成11年 大阪大学歯学部附属病院 第二口腔外科 医員  
平成14年 米国ニューヨーク大学 医学部 微生物学教室 研究員  
平成18年 岡山大学病院 口腔外科(再建系) 助手  
平成27年 岡山大学大学院 顎口腔再建外科学分野 講師  
令和元年 岡山大学大学院 顎口腔再建外科学分野 准教授  
令和3年 和歌山県立医科大学 医学部 歯科口腔外科学講座 教授

#### 学会活動(資格等):

口腔顔面神経機能学会(口唇・舌感覚異常判定認定医、理事)  
日本口腔外科学会(専門医・指導医、代議員)  
日本口腔科学会(認定医・指導医、評議員、近畿理事)  
日本顎変形症学会(認定医・指導医、評議員)  
日本顎顔面インプラント学会(専門医・指導医)  
国際口腔顎顔面外科専門医(FIBCSOMS)  
がん治療認定医(歯科口腔外科)  
日本口蓋裂学会(口唇裂・口蓋裂認定師(口腔外科分野))  
インфекションコントロールドクター(ICD)  
日本救急医学会認定 ICLS インストラクター

\* 終了後に会場にて受講証書をお渡しいたします、認定医申請・更新に必要な10単位が取得可能です。

## 1. 舌がん患者における術後の舌知覚変化が構音機能に及ぼす影響

○松永和秀（まつなが かずひで）<sup>1</sup>、紀之定紘子<sup>2</sup>、鈴木真央<sup>3</sup>、山口実紗<sup>1</sup>、竹下彰範<sup>1</sup>、森田祥弘<sup>1</sup>、岸本聡子<sup>1</sup>、鶴澤成一<sup>1</sup>

- 1) 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔腫瘍外科学講座
- 2) りんくう総合医療センター 歯科口腔外科
- 3) 市立豊中病院 歯科口腔外科

舌がんで手術を施行された患者に聞き取り調査を行うと、舌知覚が低下することで咀嚼機能と構音機能が低下したと回答した症例が多かった。そこで、舌部切・一次縫縮術群と舌切除・前腕遊離皮弁再建術群における舌知覚変化が構音機能に及ぼす影響について報告し、また最新の知見についても報告する。

## 2. インプラント治療に起因する下歯槽神経障害の病態分類と治療戦略

○村山雅人（むらやま まさと）<sup>1,2)</sup>、小原身知子<sup>1)</sup>、有泉高晴<sup>1)</sup>、西山明宏<sup>3)</sup>、村山偉知朗<sup>2)</sup>、片倉朗<sup>3)</sup>、渡邊章<sup>1)</sup>

- 1) 東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座, 2) 医療法人社団ムラヤマ歯科
- 3) 東京歯科大学口腔病態外科学講座

下歯槽神経障害の原因となったインプラントの早急な撤去は、多くの症例で不適切であり、この対応は病態を悪化させる可能性すらある。本演では、我々が提唱するインプラントに起因する下歯槽神経障害の分類を示し、自験例を通じて条件・病態に応じた適切な処置戦略を提案する。

## 【一般口演抄録】

### 1-1 保存療法を選択した舌神経障害の臨床的検討

○多田 慧 (ただ けい)<sup>1)</sup>、西山明宏<sup>2)</sup>、小原身知子<sup>1)</sup>、岩崎 亮<sup>2)</sup>、杉浦 慧<sup>2)</sup>、山本裕義<sup>2)</sup>、田中 齊<sup>1)</sup>、加藤禎彬<sup>2)</sup>、有泉高晴<sup>1)</sup>、片倉 朗<sup>2)</sup>、渡邊 章<sup>1)</sup>

1) 東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座、2) 東京歯科大学口腔病態外科学講座

東京歯科大学水道橋病院急性期神経機能修復外来における保存療法を選択した舌神経障害症例の実態を把握するために2023年4月から2024年3月に受診した症例について臨床的統計を行ったのでその概要を報告する。

### 1-2 エナメル上皮腫に対する下顎骨辺縁切除において神経再生誘導チューブを使用した治療経験

○沢井奈津子 (さわい なつこ)<sup>1,2)</sup>、高才東<sup>3)</sup>、小松紀子<sup>4)</sup>、黒田実可子<sup>4)</sup>、山城正司<sup>2)</sup>、末永英之<sup>4)</sup>、安部貴大<sup>5)</sup>

1) 神奈川歯科大学 2) NTT東日本関東病院 歯科口腔外科 3) 東京大学医学部附属病院 口腔顎顔面外科・矯正歯科 4) 神奈川歯科大学口腔外科学講座 5) 自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第2講座歯科口腔外科

下顎に発生したエナメル上皮腫の再発症例に対して、下顎骨辺縁切除を行った。下歯槽神経の合併切除に対して、神経再生誘導チューブを用いて神経再建を行い良好な結果が得られたため、手技および経過について、文献的考察を加えて報告する。

### 1-3 東京歯科大学千葉歯科医療センター急性期神経機能修復外来における過去5年間の臨床的検討

○山本 裕義 (やまもと ひろよし)<sup>1)</sup>、西山 明宏<sup>1)</sup>、山崎 梓<sup>2)</sup>、有泉 高晴<sup>2)</sup>、渡邊 章<sup>2)</sup>、片倉 朗<sup>1)</sup>

1) 東京歯科大学口腔病態外科学講座、2) 東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座

当外来を受診した神経障害患者117例（女性72%、平均45.5歳）を検討した。原因は智歯抜歯が約半数で最多、障害神経は下歯槽神経が約8割であった。地域連携による早期診断と適切な治療介入の重要性が示唆された。

## 2-1 当科における顎関節外科手術後の顔面神経麻痺の検討

○梶原千聡（かじわら ちさと）、四道玲奈、中川貴之、植月 亮、水田邦子、佐久間美雪、宮原佑佳、  
竹田祐三、北村海大、相川友直  
広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学講座

過去4年間に当科で実施した顎関節外科手術8例13側（人工関節全置換術；4例7側，肋骨肋軟骨再建；2例3側，顎関節gap arthroplasty；2例3側）を対象に，術後顔面神経麻痺について調査，検討したので報告する。

## 2-2 ALS 脊髄後根神経節における一次感覚ニューロン障害の病態解明

○西浦 輝<sup>1)</sup>、関 壮樹<sup>1)</sup>、小林 拓弘<sup>1)</sup>、川田 創<sup>2)</sup>、北岡 好大<sup>3)</sup>、田中 晋<sup>1)</sup>

- 1) 大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座、2) 八尾市立病院 歯科口腔外科  
3) カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部生命システム機能学分野神経薬理学教室

筋萎縮性側索硬化症（ALS）の脊髄後根神経節（DRG）をALSモデルマウスで多角的に解析したところ、酸化ストレスの亢進やNaチャンネル変動、細胞体萎縮および膜興奮性亢進が生じていた。ALSにおける一次感覚ニューロンの変化は、病態を再考する鍵となる可能性がある。

## 2-4 嚥下機能評価を契機に診断され、多職種連携により経口摂取再開に至った ワレンベルグ症候群の1例

○村井 崇人<sup>1)</sup>、岡野 陽奈<sup>1)</sup>、苗村 真由子<sup>1)</sup>、池田 智紀<sup>2)</sup>、山崎 開<sup>2)</sup>、川北 憲人<sup>2)</sup>、  
高岡 一樹<sup>1)</sup>

- 1) 滋賀医科大学医学部 歯科口腔外科学講座、2) 滋賀医科大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

嚥下機能評価にて脳神経系疾患が疑われ、ワレンベルグ症候群と診断された症例を経験した。  
診断後、治療およびリハビリテーションにより、再び経口摂取が可能となり、嚥下機能評価を行う際は脳神経学的観察及び多職種連携が重要であると考えられた。

### 3-1 術野に舌神経が露出した下顎枝分割の1例

○北村海大 (きたむら みひろ)、四道玲奈、植月亮、中川貴之、水田邦子、宮原佑佳、梶原千聡、相川友直

広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学講座

下顎枝矢状分割術 (SSRO) の偶発症として下歯槽神経知覚異常が最も多いが、まれな偶発症には舌神経知覚異常も報告されている。われわれは SSRO の canal split 症例で舌神経の露出した症例を経験したので、その概要について文献的考察を加えて報告する。

### 3-2 舌神経外傷性神経腫の超音波検査による定量評価

○岩崎 亮 (いわさき あきら)<sup>1)</sup>、西山明宏<sup>1)</sup>、音成実佳<sup>3)</sup>、有泉高晴<sup>2)</sup>、菅原圭亮<sup>1)</sup>、渡邊 章<sup>2)</sup>、片倉 朗<sup>1)</sup>

1)東京歯科大学 口腔病態外科学講座、2)東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座

3)東京歯科大学 歯科放射線学講座

舌神経の部分断裂症の診断下に当院にて神経修復術を施行した患者のうち6例に対して、術前に超音波検査を施行した。外傷性神経腫を示唆する所見の画像解析を行い、健側と患側での輝度の比較で定量評価を行った。

### 3-3 Le Fort I 型骨切り術後の歯髄反応の経時的変化に関する検討

○小竹森未菜美 (こたけもり みなみ)、天野克比古、中辻和樹、明石翔、古澤海風、飯田征二

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学分野

Le Fort I 型骨切り術 (LF I) は上顎骨を down fracture 後移動させる術式であるが、骨切り部を走行している神経線維の切断が避けられず、術後の上顎歯の歯髄反応の低下が知られている。今回われわれは術後の歯髄反応の経過について検討したので報告する。

#### 4-1 カプサイシン刺激による生理学的味覚性発汗と唾液分泌の反応

○月村久恵 (つきむら ひさえ)<sup>1)</sup>, 高橋文太郎<sup>2)</sup>, 西 祐也<sup>2)</sup>, 渡邊 輝<sup>2)</sup>, 高田 訓<sup>2)</sup>

1) 奥羽大学大学院歯学研究科顎口腔外科学、2)奥羽大学歯学部口腔外科学講座

発汗を抑えつつ唾液分泌を促進する薬剤の可能性を探るため、カプサイシン溶液の含嗽による生理的味覚性発汗と唾液分泌について検討した。その結果、発汗と唾液分泌に時間の差が認められた。

#### 4-2 開口時における高速 MRI を用いた舌神経損傷リスクの検討

○加藤栄助 (かとう えいすけ)<sup>1)</sup>、田中 斎<sup>2)</sup> <sup>4)</sup>、高尾千紘<sup>1)</sup>、多田 慧<sup>2)</sup>、西村光正<sup>3)</sup>、小原身知子<sup>2)</sup>、岩崎 亮<sup>3)</sup>、杉浦 慧<sup>3)</sup>、加藤禎彬<sup>3)</sup>、有泉高晴<sup>2)</sup>、西山明宏<sup>3)</sup>、福田謙一<sup>1)</sup>、渡邊 章<sup>2)</sup>、片倉 朗<sup>3)</sup>

- 1) 東京歯科大学口腔健康科学講座障害者歯科・口腔顔面痛研究室、
- 2) 東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座、3) 東京歯科大学口腔病態外科学講座、
- 4) 国立病院機構高崎総合医療センター歯科口腔外科

目的：舌神経損傷リスクの検討

方法：神経損傷患者各5名のMRIデータから舌神経の位置を比較した。

結果：両群で舌神経の位置を同定し、比較検討を行えた。

結語：症例数を増やし、損傷患者の傾向を検索する。

#### 4-3 根管治療に起因した下歯槽神経麻痺の臨床的検討

○杉浦 慧<sup>1)</sup> (すぎうら けい)、西山 明宏<sup>1)</sup>、小原 身知子<sup>2)</sup>、岩崎 亮<sup>1)</sup>、加藤 禎彬<sup>1)</sup>、有泉 高晴<sup>2)</sup>、渡邊 章<sup>2)</sup>、片倉 朗<sup>1)</sup>

1) 東京歯科大学 口腔病態外科学講座、2) 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座

下顎臼歯部の根管治療を行った際に生じる下歯槽神経麻痺が、低頻度ながら報告されている。今回われわれは、2022年4月から2024年3月までに東京歯科大学神経修復外来を受診した、根管治療に起因した下歯槽神経麻痺患者について調査したので報告する。

# 協賛企業一覧

## 【企業展示】

KLSマーチンジャパン株式会社

ニプロ株式会社

ベアーメディック株式会社

センチュリーメディカル株式会社

シエン社

## 【広告】

ワシエスメディカル株式会社

KLSマーチンジャパン株式会社



「術後なにを食べたらいいの？」  
の疑問にお応えします！

# カームミール

おいしく食べて  
痛みを和らげる  
お口にやさしい  
リカバリー食



カームミール  
〈プレミアム〉

患者様に寄り添ったホスピタリティで、選ばれるクリニックへ

## 創部の安静と 治癒促進

口腔外科手術後の義歯性潰瘍、歯周病などによる一時的な咀嚼障害に対し、創傷の治癒促進となります。

## 最良の 鎮痛剤として

鈍痛を伴う時にこそ、おいしく食事を召し上がっていただくことが、最良の鎮痛剤であると考えています。

## ホスピタリティ 向上

「痛みを我慢する」ではない選択肢を。アフターケアを強化し、患者様に寄り添って、トータルケアの質を向上します。

### カームミール 〈プレミアム〉

術後の回復に効果的な栄養素、食べやすさに加えシェフ仕様の美味しさにこだわった冷凍食品。ご希望の日時に直接ご自宅にお届けいたします。5食セットでお届けします。

2025年12月発売予定



冷凍

### カームミール 〈ライト〉

カームミールプレミアムの風味はそのままに、レトルトパッケージで手軽に電子レンジで温めてお召し上がりいただけます。

2026年2月発売予定

常温

【歯科向け発売元】 **ワシエスメディカル株式会社**

デンタルマーケット事業部  
TEL : 03-3815-7682  
<https://www.washiesu.com>

# KLS martin GROUP

## LevelOne

One level ahead.



## SonicWeld Rx® The Perfect Choice

## CMF Surgery

Individualizing therapeutic concepts.  
Surgical innovation is our passion.  
Applying advanced technologies.  
Developing comprehensive solutions.  
Maximizing daily success.



### KLSマーチンジャパン株式会社

〒102-0082  
東京都千代田区一丁目 23-3 フロントプレイス千代田一丁目 5F  
TEL: 03-3814-1431 ホームページ: <https://www.klsmartin.com/jp>

販売名: ソニックウェルド Rx システム  
承認番号: 22500BZX00554000  
販売名: ソニックウェルドシステム用手術器械  
届出番号: 13B1X10197010006  
販売名: マーチン スレッドロック TS システム  
承認番号: 22800BZX00271000  
販売名: maxDrive スクリュー  
承認番号: 22600BZX00342000